

慶應義塾大学大学院 前野隆司研究室との共同検証結果の発表

「屋外」で会議を行うことで、創造性が高まり、チームの関係性が向上することが明らかに
～屋外で会議を体験した人の83%が「チームの一員だと感じる」、78%が「主体的に参加できている」と回答～



株式会社スノーピーク（代表取締役 社長執行役員：山井梨沙、本社：新潟県三条市、証券コード：7816）の子会社、株式会社スノーピークビジネスソリューションズ（愛知県岡崎市 代表取締役：村瀬亮、以下SPBS）は幸せを科学的に分析する幸福学の第一人者である前野隆司氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）と組織と働き方の研究者である井上亮太郎氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任講師）との共同研究にて、アウトドア会議をビジネスに取り入れることでどのような効果を与えるか、検証を行いました。

スノーピークは「人間性の回復」をミッションに掲げ、ビジネスにおいても自然と人、人と人とのつながりを大切にサービスを提供しています。SPBSのアウトドア会議では主体性、関係性、創造性といった要素を高める目的があり、「幸福感の高い社員の創造性は3倍*」等の研究結果もあることから、ポジティブな感情がこれらの要素を高めることを立証するために、従来の会議スタイルである屋内会議と比較したアンケートの結果をもとに効果を数値化しました。主な調査結果は以下の通りです。

*米イリノイ大学心理学部 名誉教授 エド・ディーナー博士らの研究結果

■ アウトドア会議では、人間性の回復につながる要素である「主体性」「関係性」「創造性」の大幅な向上が見られ、屋内会議と比べほぼすべての項目でポイントが上昇した。

- ・「主体性の向上」において特に効果の高い項目：主体的に参加できている（78.4%）
- ・「関係性の向上」において特に効果の高い項目：チームの一員だと感じる（83.3%）
- ・「創造性の向上」において特に効果の高い項目：発想が広がる（68.9%）

■ 屋内会議とアウトドア会議で、それぞれの感情状態を確認したところ「ワクワクする」「リラックスする」とともにアウトドア会議では感情状態が大幅に高まっていることがわかった。こうした感情面の高まりにより、人間性の回復の土台がつけられている。

調査概要

- 実施時期：2022年04月04日（火）～ 06月03日（金）
- 調査手法：会場におけるアンケート調査
- 調査対象：SPBSのアウトドア会議を実践した会社員276名（13社）



幸福学を研究する前野隆司氏に聞く、
アウトドアをビジネスにとりいれる有効性とは？（→P.4ご参照）

このリリースに関するお問い合わせ

株式会社スノーピークビジネスソリューションズ 担当：早川、永井
Tel. 0564-73-6657 URL：https://snowpeak-bs.co.jp

【調査内容】

屋内会議とアウトドア会議を実施した際に下記のアンケートを行い、収集したデータをもとに「感情」と、人間性を構成する「主体性・関係性・創造性」にあたる変化を分析した。また、プログラム毎に効果の有効性も比較している。

一 屋内会議 一

屋内会議で感じていること（15項目）を7段階で評価

一 アウトドア会議 一

アウトドア会議で感じたこと（15項目）を7段階で評価

アウトドア会議のどのプログラムで効果を実感したか

テント設営 / アウトドア会議 / 焚火トーク

協力企業数：13社
 回答数…研修事前：276名 研修直後：264名
 実施時期：2022年04月04日（火）～06月03日（金）
 調査手法：会場におけるアンケート調査

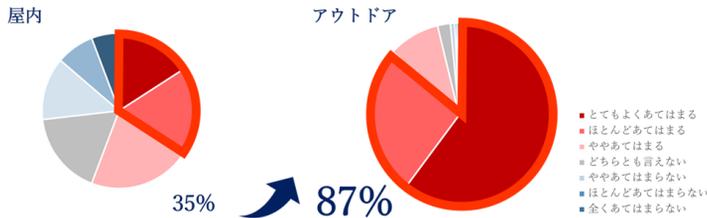
分類	評価項目
感情	ワクワクする
	リラックスする
主体性	自分の考え・意見をのべることが出来る
	主体的に参加できている
	自分らしく振舞っている
関係性	自分の感情を適切に表現できる
	他者の意見を素直に受け止めることが出来る
	チームの一員だと感じる
創造性	参加者間で意見が活発に交わされる
	想像力がかきたてられる
	物事の捉え方が変わる
	発想が広がる
	偏見や先入観なく考えられる
	集中する
	自分自身について客観視できる

【調査結果】

※各質問の「とてもよくあてはまる」+「あてはまる」の回答の割合

■ 「ワクワクする」と回答をした割合※がアウトドア会議後に142%アップ

図1. 「ワクワクする」の屋内とアウトドア会議での変化



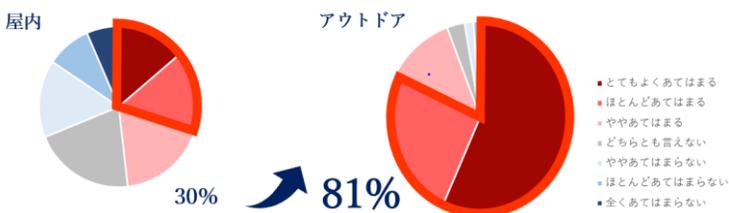
自然の中、チームの協働作業で行うテントの設営などのワークにより、屋内では感じるこのできない「ワクワク」を実感した人が多い。アウトドア会議で味わう非日常感が、普段の閉塞的な環境での会議とは異なり、感情が豊かになったという意見が多数報告されている。

参加者の声

- 開放的な自然の中で話すことで、普段の閉塞的なオフィスでは得られないワクワクや楽しさを感じた。
- ゲーム感覚でテントを建てるのがとても楽しかった。伝達の大切さを実感できた。
- 普段は壁に囲まれたなか作業することが多いが、アウトドアでの作業は感情が豊かになり、いつもと違った話し合いが生まれたと感じた。

■ 「リラックスする」と回答をした割合がアウトドア会議後に160%アップ

図2. 「リラックスする」の屋内とアウトドア会議での変化



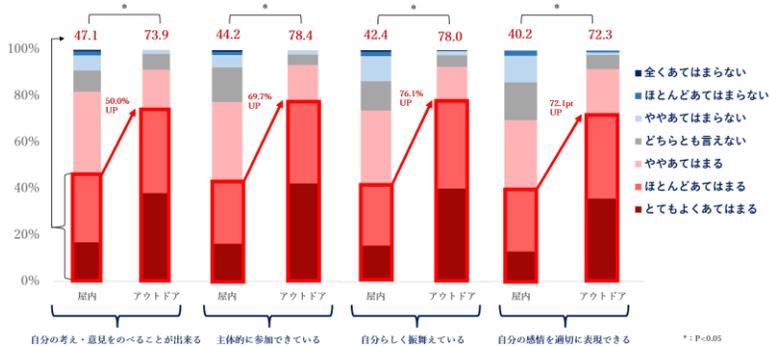
アウトドア会議で味わう開放感により屋内に比べて「リラックスする」と回答した人の割合が非常に多くなっている。その結果、意見が出やすくなったり、普段よりいいアイデアが浮かぶといった意見が多数報告されており、会議の質の向上が期待できる。

参加者の声

- 開放感を味わいながら、終始和やかな雰囲気話し合いを楽しめた。
- 開放的な環境で、集中するときとリラックスするときを上手く切り替えることができた。チームの意見交流も活発だった。
- 外の環境でリフレッシュしながらできたことにより、みんな普段よりいいアイデアが浮かんでいたと思う。

■ビジネスにおける人間性の回復に影響すると考える3つの要素「主体性」「関係性」「創造性」は、アウトドア会議においてほぼ全ての項目で飛躍的に向上した

図3.主体性に関する項目の屋内とアウトドア会議での変化

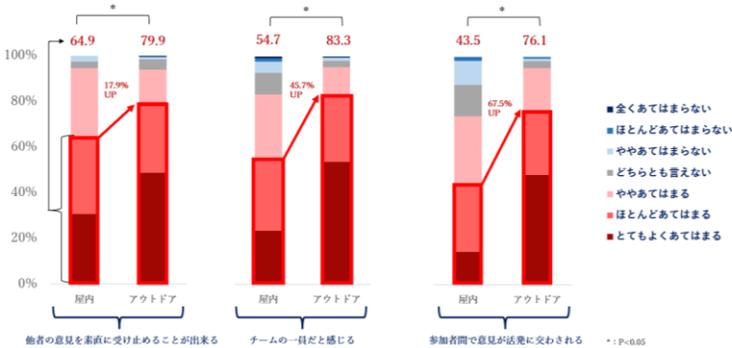


アウトドア会議において「主体的に参加できている」と回答した人は78.4%と多数確認された。自然の中に身を置くことで、普段よりも積極的な行動を促進する効果が期待できる。

参加者の声

- 普段の研修よりも参加者全員がプライベートのことや自分の意見を積極的に話すことができていて、同僚のことをより理解できた。
- 普段は自分から積極的に話しかけないが、焚火を囲んで多くの人と積極的に会話できた。

図4.関係性に関する項目の屋内とアウトドア会議での変化

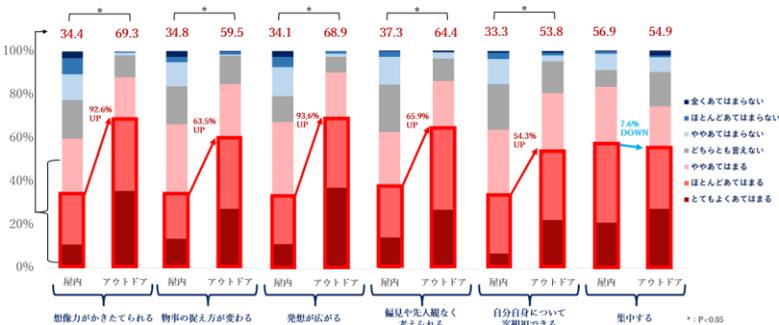


アウトドア会議において「チームの一員だと感じる」と回答した人は83.3%と多数確認された。共同作業等を通じて一体感が高まることで、互いに意見が述べやすくなる効果が期待できる。

参加者の声

- 普段、オフィスでは話しづらかったり交流をすることができない人にも気軽にコミュニケーションすることができた。
- 素の自分をさらけ出して、受け入れてもらうことができた。

図5.創造性に関する項目の屋内とアウトドア会議での変化



アウトドア会議において「発想が広がる」と回答した人は68.9%と多数確認された。ものの見方が変わり、想像力が刺激されるなど、会議における創造性を向上させる効果が期待できる。

参加者の声

- いつもとは違う環境で会議を行うことで、普段よりアイデアが湧きやすく、また、もう一段階深みのあるアイデアも思いつくことができた。
- 思考を巡らす際に自然を見つめると気持ちが落ち着き冷静に物事を考えられた。

■今回おこなったアウトドア会議の「テント設営」「屋外での会議」「焚火トーク」それぞれのプログラムが人間性の回復につながる効果を生み出している。

表1.アウトドア会議の各プログラムで感じる効果

分類	項目	テント設営 (%)	屋外会議 (%)	焚火トーク (%)
感情	ワクワクする	61.4%	37.9%	64.8%
	リラックスする	13.6%	34.1%	75.0%
主体性	自分の考え・意見をのべる事が出来る	20.8%	73.1%	55.7%
	主体的に参加できている	65.5%	65.9%	46.6%
	自分らしく振舞えている	45.1%	55.7%	61.4%
	自分の感情を適切に表現できる	27.7%	57.6%	62.5%
関係性	他者の意見を素直に受け止める事が出来る	28.4%	69.7%	50.4%
	チームの一員だと感じる	57.2%	49.6%	51.1%
	参加者間で意見が活発に交わされる	27.7%	71.2%	50.0%
創造性	想像力がかきたえられる	29.5%	59.5%	34.8%
	物事の捉え方が変わる	21.2%	61.0%	35.6%
	発想が広がる	24.2%	65.9%	34.1%
	偏見や先入観なく考えられる	20.8%	58.7%	40.5%
	集中する	39.8%	65.9%	17.4%
	自分自身について客観視できる	31.1%	62.1%	45.5%

※アウトドア会議のどのプログラムで効果を実感したかを複数回答で調査を実施し、回答のあった各プログラムの割合を%で表記

みんなの力を合わせて、自分たちの理想とするアウトドア会議室を作るテント設営では、「ワクワク」といった今後の出来事を期待するポジティブな感情を生起し、積極的な参加を促すレディネスを高め、「主体性」の向上にも寄与していると考えられる。テント設営で体を動かして後に行う屋外会議では、「主体性」「関係性」「創造性」に関するすべての項目が高まっていた。特に創造性が高まることは、会議体の質を向上させることに結びつく結果と言える。そして、火を囲んで語り合う焚火トークでは、火の揺らぎが「リラックス」できる空間をつくり、会話が自然と湧いてくるように、コミュニケーションが促進され「関係性」を向上させていることがわかった。

前野教授の見解

屋外の会議では創造性が高まる、発想が広がる、視野が広がる、関係性が向上する、主体的に参加できるなど、予想した通り、ビジネスにおける人間性の回復に影響すると考える要素の向上に有効であることが検証されました。

スノーピークが提供しているアウトドア会議はテント設営や焚火トークなどのプログラムが組み込まれており、それぞれのプログラムが有効に関係しあい効果を生み出していると考えられます。幸福学の研究者として、アウトドア会議などの新たな活動によって、仕事の間がこれまで以上に創造性を高めるコミュニケーションが活性化されたワクワクする場になることを願っています。

今回の共同検証から、ビジネスに自然を取り入れることの重要な結果が得られたことを嬉しく思います。



前野 隆司（まえの・たかし）氏

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授
慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長兼務

1984年東京工業大学卒業、1986年同大学修士課程修了。博士（工学）。キャノン株式会社、カリフォルニア大学パークレー校訪問研究員、ハーバード大学訪問教授等を経て現職。日本機械学会賞(論文) (1999年)、日本ロボット学会論文賞 (2003年)、日本バーチャルリアリティ学会論文賞 (2007年) などを受賞。専門は、システムデザイン・マネジメント学、幸福学、イノベーション教育など。
幸福学：幸せになる仕組みを学術的な根拠に基づいて体系化する学問



井上 亮太郎（いのうえ・りょうたろう）氏

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任講師
株式会社パーソル総合研究所主任研究員

HRM（人材開発・組織開発）、システムデザイン・マネジメント学、感性工学、幸福学、産業組織心理学など、組織や人の感情・感性に着目したモデリングや計測をベースとした研究に従事。Well-beingな働き方に関する執筆・講演多数。Project Management Institute (PMP)、日本経営工学会員、日本感性工学会員、産業組織心理学会員。

■スノーピークビジネスソリューションズの展望

ビジネスの大変革期において、変化に対応できる組織にするためにはイノベーション人材の育成が不可欠です。今回の調査で、自然を取り入れた働き方がイノベーション人材に必要な「主体性」「関係性」「創造性」の向上に有効だということが明らかになりました。

この結果をもとに、イキイキ・ワクワク働く企業、そして人間らしく働く人が世の中に増えるよう、より多くの自然を取り入れた体験の機会や場を拡げていきます。

【会社概要】

社 名：株式会社スノーピークビジネスソリューションズ

代表者：村瀬亮

設 立：2016年7月1日

所在地：愛知県岡崎市能見通1-61ウメムラビル

事 業：1. 組織及び地域活性化のための各種研修事業

2. 組織及び地域活性化のための各種ツール、アプリ、システムの開発および導入支援

3. 組織及び地域活性化のためのコンサルティング事業



アウトドア総合メーカーである株式会社スノーピークの子会社として、2016年7月に設立。「自然の壮大なエネルギーと、テクノロジーの無限の可能性を健全に融合して、人間らしく働く人を増やすことで真に豊かな世界を創る」をミッションとし、ビジネスにこそ求められている「人と人とのつながり」を、キャンピングオフィス事業を通じて企業に提供している。コーポレートメッセージは「自然と、仕事が、うまくいく。」

このリリースに関するお問い合わせ

株式会社スノーピークビジネスソリューションズ 担当：早川、永井

Tel. 0564-73-6657 URL : <https://snowpeak-bs.co.jp>